Sapporo Otani University & Junior College of Sapporo Otani University

無量壽經過去佛名について

柴　田　泰

本論は梵文無量壽經過去佛名を依り所としてシナ訳諸本の過去佛名を検討する事により，その関連性を見出す事を主題とする．

【1】

無量壽經には，阿彌陀佛が未だ因位の菩薩であった時，師佛である世自在王佛が出現される迄に過去世に現われた諸佛の記述が説かれている．諸異本を見るに

無量清浄平等覺經　三十六佛　〔漢訳〕

阿彌陀三耶三薩樓佛檀過度人道經　三十三佛　〔呉訳〕

無量壽經　五十三佛　〔魏訳〕

大寶積經無量壽如來會　四十一佛　〔唐訳〕

大乘無量壽莊嚴經　三十七佛　〔宋訳〕

Sukhāvatī vyūha　八十佛　〔梵本〕

Ḥphags-pa ḥod-dpag-med-kyi bkod-pa she-bya-ba theg-pa chen-poḥi mdo　八十一佛　〔藏本〕

である．此の中，梵本と藏本は一，二佛の出没を除いて，他の佛名は殆んど相応する．従って此の問題を解決する方法として，シナ訳諸本の過去佛名を現存梵本の過去佛名と相応させる事により，その関連性を推定し，更に推定出来ない佛名はシナ訳諸本相互の比較に於いて，その位置づけを調べようと思う．〔註〕

（先ず，現存梵本に示される過去佛名並びにその和訳を記すと次の如くである．）

〔註〕　本論文と関連のある他の諸問題について述べる必要があろうが，無量壽經諸本の研究に関する参考文献については，中村元・早島鏡正・紀野一義訳註　浄土三部經上（岩波文庫昭38年）の“大無量壽經の文献”の個所を参照されたい．

i；過去佛章に関する従来の研究は，過去佛の出現順序が遠近次第か近遠次第かと云う点に於いてのみ問題とされている．即ち，「復次有ㇾ佛」〔漢訳〕「次復有ㇾ佛」〔呉訳〕「次有二如來一」〔魏〕「於二彼佛前一」〔唐訳〕「前復有二如來一」〔宋訳〕“pareṇa parataraṁ”〔梵本〕“deḥi sṅa rol gyi yaṅ ches sṅa rol la”〔藏本〕と記されている点から，梵本は，a.“after him”〔tr. by E. Max Müller: the larger Sukhāvati-vyūha（梵藏和英合璧浄土三部経 p. 377)〕“尚遠ク……ノ後ニ”〔南条文雄著　支那五譯對照梵文和譯佛説無量壽經 p. 17〕 b.“前の更に前に”〔荻原雲來著　梵文無量壽經和譯（梵藏和英合璧浄土三部経 p. 13)〕“前のさらに前に”〔中村元・早島鏡正・紀野一義訳註　浄土三部経上 p. 14)〕と二通りに訳され，漢・呉・魏訳は古佛から新佛，唐・宋訳と藏本は新佛から古佛へと出現順序が異なっている点である．此の問題は阿彌陀佛の十劫久遠成佛論との関係にも及び，諸先師が見解を述べられているが，今は触れない．此の研究については，「梵文無量壽經の研究」（泉芳璟著）p. 93～p. 99，「荻原雲來文集」p. 238～p. 242 が著明である．彼って，過去佛名についての研究は見当らず，本論は此の点の検討を目的とする．

ii；無量壽經中，他に佛名の示される個所は，正宗分の終りの部分で説かれる“十三佛国の菩薩の浄土往生”に認められる．諸本とも（梵本を除き）その佛名数は一致し，相互の関連性も容易に判明しようから，それを図示するに留める．

NII-Electronic Library Service

Sapporo Otani University & Junior College of Sapporo Otani University

	Skt.	宋	唐	魏	漢	※Tib.
1.	Duṣprasaha	難忍	難忍	遠照	光遠炤	難勝
2.	Ratnākara	寶藏	寶藏	寶藏	寶積	寶生
3.	Jyotiṣprabha	火光	無量聲	無量音	儒無垢	星光
4.	Amitaprabha	無量光	光明	甘露味	無極光明	無量音
5.	Lokapradīpa	世燈	龍天	龍勝	世無上	世燈
6.	Nāgābhibhū	龍樹	勝天	勝力	勇光	龍威勝
7.	Virajaḥprabha	無垢光	師子	師子	具足交絡	離塵光
8. 9.	Siṁha	師子	離塵	離垢光	雄慧王	師子
10.	Śrīkūṭa	吉祥峰	世天	德首	多力無過	德積
11.	Nareṇdra	仁王	勝積	妙德山	吉良	人王
12.	Balābhijña					神通力
13.	Puṣpadhvaja	花幢	人王	人王	慧辯	華幢
14.	Jvalanāḍhipati	光明王	勝華	無上華	無上華	
15.	Vaiśaradyaprāpta	得無畏	發起精進	無畏	樂大妙音	得無畏

※梵本は荻原雲來博士の Oxford 本の改訂本を用いたが，宋訳と殆んど一致するので訳は省略する．藏本は河口慧海氏訳を記す．呉訳は音訳故省略する．

【2】

先ず，現存梵本に示される過去佛名並びにその和訳を記すと次の如くである．[1]

1 Dīpaṁkara 燈を作る　2 Pratāpavat 光を持てる
3 Prabhākara[2] 光を発す　4 Candanagandha[3] 稱檀の香り
5 Sumerukalpa[4] スメール山の如き　6 Candana[5] 稱檀
7 Vimalānana[6] 無垢の顔　8 Anupalipta 汚れ無い
9 Vimalaprabha 無垢の光　10 Nāgābhibhū[7] 龍の勝者
11 Sūryodana[8] 太陽の顔　12 Girirājaghoṣa 山王の声
13 Merukūṭa[9] スメール山の峰　14 Suvarṇaprabha[10] 黄金の光
15 Jyotiṣprabha 炎の光　16 Vaidūryanirbhāsa 瑠璃の光
17 Brahmaghoṣa[11] ブラフマンの声　18 Candābhibhū[12] 月の勝者
19 Tūryaghoṣa[13] 樂器の音
20 Muktakusumapratimaṇḍitaprabha 花のまき散らされた様に飾られた光
21 Śrīkuṭa 吉祥な峰　22 Sāgaravarabuddhivikrīḍitābhijña 海の様な勝れた覚りを遊戯する神通
23 Varaprabha 勝れた光　24 Mahāgandharājanirbhāsa[14] 大いなる香りの王の光
25 Vyapagatakhilamalapratighoṣa[15] 塵や垢で汚れていない声
26 Śūrakūṭa[16] 英雄の峰　27 Raṇaṁjaka[17] 争いを捨てた
28 Mahāguṇadharabuddhiprāptābhijña 大いなる功徳を持った覚りを得た神通
29 Candrasūryajihmīkaraṇa[18] 月と太陽をさえぎる程の音
30 Uttaptavaiḍūryanirbhāsa[19] 輝ける瑠璃の光
31 Cittadhārābuddhisaṁkusumitābhyudgata 心から流れ出た覚りの花咲く様に一杯に現れ出た
32 Puṣpāvatīvanarāja saṁkusumitābhijña 花ある林中の王の一杯に花咲く様な神通
33 Puṣpākara 花をまき散らす　34 Udakacandra[20] 水に写る月
35 Avidyāndhakāravidhvaṁsanakara 無明の暗闇を破る
36 Lokendra[21] 世界の中の王　37 Muktacchatrapravāta sadṛśa[22] 真珠の蓋と珊瑚の様な
38 Tiṣya 幸ひ　39 Dharmamativinanditarāja 法の智慧に喜こばれたる王

NII-Electronic Library Service

Sapporo Otani University & Junior College of Sapporo Otani University

40 Siṁha sāgarakūṭavinanditarāja[23] 師子・海・峰を喜こばれたる王
41 Sāgaramerucandra 海・スメール山の月
42 Brahma svaranādābhinandita ブラフマンの音声を喜ぶ
43 Kusuma saṁbhava 花から生じる 44 Prāptasena 軍を得たる
45 Candrabhānu[24] 月の明り 46 Merukūṭa スメール山の峰
47 Candraprabha 月の光 48 Vimala netra 無垢の眼
49 Girirājaghoṣeśvara 山王の声の様に自在な 50 Kusumaprabha 花の光
51 Kusumavṛṣṭyabhiprakīrṇa 花の雨をまき散す 52 Ratnacandra[25] 寶の月
53 Padmabimbyupaśobhita[26] 蓮花の影に飾られた 54 Candanagandha[27] 稱檀の香り
55 Ratnābhibhāsa[28] 寶の光 56 Nimi[29] 眼のまばたき
57 Mahāvyūha 大なる荘嚴 58 Vyapagata khiladoṣa[30] 汚れたる罪から離れた
59 Brahmaghoṣa ブラフマンの声 60 Saptaratnābhivṛṣṭa 七寶を雨降らす
61 Mahāguṇadhara 大なる功徳を持てる
62 Mahātamālaptracandanakardama[31] 大きなタマーラ樹の葉と稱檀の影
63 Kusumābhijña 花の神通 64 Ajñānavidhvaṁsana 無智を破る
65 Keśarin 師子 66 Muktacchatra 真珠の蓋
67 Suvarṇagarbha 黄金の蔵 68 Vaidūryagarbha[32] 瑠璃の蔵
69 Mahāketu 大いなる幢 70 Dharmaketu 法の幢
71 Ratnaketu[33] 寶の幢 72 Ratnaśrī 寶の吉祥なる
73 Lokendra[34] 世界の中の王 74 Narendra[35] 人中の王
75 Kāruṇika 哀みを持てる 76 Laka sundra[36] 世界の美しさ
77 Brahmaketu ブラフマンの幢 78 Dharma mati 法の智慧
79 Siṁha 師子 80 Siṁha mati[37] 師子の智慧

〔註〕

1) 梵本過去佛名は，Max Müller 博士・南條文雄博士共同出版の Oxford 本を荻原雲来博士が改訂された梵本を底本とし，東京大学所藏 No.27, No. 43, No. 63〔東. No. 27, No. 43, No. 63〕京都大学所藏〔京.〕の写本を参考とした.

和訳は，南條文雄博士訳「支那五譯對照梵文和譯佛説無量壽經」〔南條訳.〕荻原雲來博士訳「梵文無量壽經和訳」〔荻原訳〕 中村元・早島鏡正・紀野一義博士訳註「浄土三部経上」〔岩波訳〕を参考とした.

2) 梵文 "(佛名 m. sg. N) nāma tathāgato' (bhūt)" (～と名づけられる如来がありました) の佛名のみを挙げる.
3) 東. No. 27 欠 4) ㊹と同名.
5) Kalpa には 1. 如 2. 劫波 の二義あり. 劫波と訳すると "スメール山程の永い年月" となる.
5) 京. Candrāsana 荻原訳註(17) Candrānana
6) 東. No. 27 Visalānana ?
7) 東. No. 27 Nāsābhibhu No. 43 Nāsābhibhū No. 63 Nāsābhibhūta 京. Nāgārbhibhū
8) 東. No. 27 Sūryyadana No. 43, 63 Sūryyodaya 京. Sūryānana 荻原訳註(18) Sūryānana ㊻と同佛名.
9) 京. Sumerukūṭa 10) 京. Suvarṇaprabhāsa 11) ㊾と同佛名.
12) 東. No. 63 °bhibhūta 京. °ābhū
13) 東. No. 27, 63, 京. Sūryya° 東. No. 43, 荻原訳註(19) Sūrya°
14) 京. rāja→garbhga (or garbhja) ?
15) 京. °lilamala° 荻原訳註(20) °pratigha 16) 京. Sūra°
17) 東. No. 27, 63, 京. Ratna-jaha 東. No. 43 Jaha 荻原訳註(21) Ratna-jaha
18) 東. No. 27, 43, 63 °sūryya°
19) 東. No. 27, 43, 63 °vaidūryya° 京. Utapta°
20) 東. No. 27, 63 dakacandrāpama 東. No. 43 欠 京. dakacandropama

NII-Electronic Library Service

Sapporo Otani University & Junior College of Sapporo Otani University

21) ⑬と同佛名.
22) 京. °cchatroprapravāḍa° 荻原訳註(22) °cchatrapravāḍa°
23) 東. No. 27 欠 24) 東. No. 27 Candrabhānurbhāma
25) 京. 荻原訳註(23) °cchatra
26) 東. No. 27, 京 °cīryupa° 東. No. 43? No. 63 °bivyūpa°
27) ⑭と⑮の間に東. No. 27, 63, 京. Tagara gandha の語あり, 東. No. 43 gandha のみ.
28) 京. °nirbhāsa
29) 東. No. 27 Nirmi No. 43 Niminimimahāvyūha (⑯と⑰を合併) 京. Nirmita
30) 東. No. 27 °śila°
31) 東. No. 43 °tamārayatra No. 63 °tamāyatra 京. Mahā の話無し.
32) 東. No. 27, 43, 63 Vaiḍūryya° 33) 東. No. 27, 43, 63, 京. 欠 34) 京. ⑬⑭順逆.
35) 東. No. 43 欠 36) 東. No. 27, 63, °sundara 37) 東. No. 63, °mata

【3】

さて，かように梵本で示される佛名に相応すると思われるシナ訳諸本の佛名を挙げて見ようと思うが，呉訳の訳語はすべて音訳であり別の機会にゆずる事として，今回は義訳されている他の四訳について検討する．初めに，梵本・シナ訳諸本の過去佛名対照表[1]を示すと次の如くである．

第1表 無量壽經過去佛名對照表

	Skt. 本	宋 訳	唐 訳	魏 訳	漢 訳
1	Dīpaṁkara	①然燈	①然燈	①錠光	①錠光
2	Pratāpavat	②(鉢囉多波野輸)	②苦行		
3	Prabha-ākara	③發光		②(光遠)	②(曜光)
4	Candana-gandha	④(賛那曩誐囉護)	④稱檀香	④稱檀香	③(日月香)
5	Sumeru-kalpa	⑤須彌劫	⑥妙高劫		
6	Candana→Candrānana	⑥(月面)	③(月面)	⑧(月色)	⑤(日月面)
7	Vi-mala-ānana	⑦無垢面	⑦離垢面	⑩(離垢)	⑥無塵垢
8	An-upalipta	⑧(無著)	⑧不染汙	⑪(無著)	⑦無沾汙
9	Vi-mala-prabha				
10	Nāga-abhibhū	⑨龍主	⑨龍天	⑫龍天	⑧(如龍無所不伏)
11	Sūryodana→Sūryānana	⑩日面			
12	Giri-rāja-ghoṣa	⑪山響音王	⑩山聲王		
13	Meru-kūta	⑫須彌峯	⑤⑪難迷盧積		
14	Suvarṇa-prabha	⑬金藏	⑫(金藏) ⑮(大地種姓)	⑱(金藏)	⑫(金藏)
15	Jyotiṣ-prabha	⑭火光 ⑮(不動地)	⑯(光明熾盛瑠璃金光)	⑲(燄光) (⑮不動地 ㉑地 動)	⑭有擧地
16	Vaiḍūrya-nirbhāsa	⑯瑠璃光			⑮瑠璃光
17	Brahma-ghoṣa				
18	Candra-abhibhū	⑰月王	⑰(月像)	㉒(月像)	⑯(日月光)
19	Tūrya-ghoṣa→Sūrya-ghoṣa	⑱日音		㉓日音	⑰日音聲
20	Mukta-kusuma-pratinaṇḍita-prabha	⑲(散華莊嚴)	⑱開敷花莊嚴光	㉔解脱華 ㉕莊嚴光明	
21	Śrī-kūṭa	⑳吉祥峯			
22	Sāgara-vara-buddhi-vikrīḍita-abhijña	㉑(持海慧自在通王)	⑲妙海勝覚遊戯神通	㉖(海覺神通)	⑲(神通遊持意如海)
23	Vara-prabha	㉒(施光)	⑳(金剛光)		
24	Mahā-gandha-vāja-nirbhāsa	㉓(大香象光)	㉑(大阿迦陀香光)	㉘(大香)	
25	Vyapagata-khila-mala-pratighosa-pratigha	㉔(離一切垢)	㉒(捨離煩悩心)	㉙(離垢塵)	
26	Śura-kūṭa	㉕勇猛峰	㉔勇猛積		
27	Raṇaṁ-jaha→Ratna-jaha	㉖(寶光)		㉛(寶燄)	
28	Mahā-guṇa-dhara-buddhi-prāpta-abhijña	㉗持多德得通	㉖持大功德法施神通	㉞(功德持慧)	
29	Candra-sūrya-jihmī-karaṇa	㉘(過日月光)	㉗映蔽日月光	㉟蔽日月光	

NII-Electronic Library Service

Sapporo Otani University & Junior College of Sapporo Otani University

30	Uttapta-vaiḍūrya-nirbhāsa	㉙(最上瑠璃光)	㉘照曜瑠璃	㊲無上瑠璃光	
31	Citta-dhārā-buddhi-saṁkusumita-abhyudgata	㉚(慧華開心行出生)	㉙(心覚花)		
32	Puṣpāvatī-vana-rāja-saṁkusumita-abhijña	㉚(大華林通王)	㉝(花瓔珞色王開敷神通)	㊷(華色王)	
33	Puṣpa-ākara				
34	Udaka-candra	㉜(一月光)	㉜水月光	㊸水月光	㉘水月光
35	Avidya-andhakara-vidhvaṁsana-kara	⑧破無明黒暗	㉞破無明暗	㊹(除癡暝)	㉘(除衆冥)
36	Loka-indra				
37	Mukta-cchatra-pravāta-sadṛśa (pravāḍa)-	㉞(眞珠珊瑚蓋)	㉟(眞珠珊瑚蓋)		
38	Tiṣya		㊱底沙		
39	Dharma-mati-vinaṁdita-rāja	㉟(三乘法自在王)	㊳法慧吼	㊾(法慧)	㉜(法意)
40	Siṁha-sāgara-kūṭa-vinandita-rāja	㊱師子海峯自在王			
41	Sāgara-meru-candra				
42	Brahma-svaranāda-abhinandita	㊲梵音聲自在王	㊵(梵音龍吼)		

本表に於いて判明する点は，宋唐訳が現存梵本と多くの相応佛名を持ち，魏漢訳はそれ程相応佛名が無い，と云う二つのグループに分けられる事である．従って，音訳である呉訳を含めて，漢魏訳の検討は別の機会にゆずり，宋唐訳を中心に検討を進める．

先ず，Dīpaṁkara に相当する㊫㊐然燈・㊘錠光・㊙定光・㊧提恕竭羅は，過去佛として特に著名であり，他の諸経論にも屢々述べられているが[2]，諸本とも阿彌陀佛の師佛たる Skt. Lokeśvararāja ㊫㊘世自在王，㊐世間自在王，㊙㊧樓夷亘羅と同様に一致している．宋②鉢囉多波野輸は音訳であるが，現在の中国音に表わすと[3] pra-ta-pa-yeshu となり，恐らく，Skt. ② pratāpavat に相応しよう．唐②苦行は pratāpa を pratapas と受取り，苦行と解したのだろう．魏漢訳には相応佛名は見当らない．宋③發光は，Skt. ③ Prabhākara とある ā-kara が ā-√kṛ〔to scatter, sprinkle over〕[4] の派生語であり，“Prabhā〔光〕を発する”と訳す宋訳に一致する[5]．魏②光遠・漢②曜光もその位置から考えて Skt. ②では無く③に相当しよう．宋④賛那曩誐囉護も，恐らく Skt. ④ Candana-gandha であろう．音訳からその原語を推定する事は曖昧であるが，①③⑤が夫々相応する点から考えて，②④も相応すると考えて良いであろう．唐魏訳④は完全に一致する．漢③日月香は Sūrya-candra-gandha となり相応しないが，⑤⑯の日月- と記される佛名がいずれも月- であり，日の字は不用である特徴があるから日月香は月香とすればその位置から見て Candana を Candra と訳したと思う．

Skt. ⑤ Sumerukūṭa には，宋⑤唐⑥が完全に一致するが，魏訳は⑤善山王⑥須彌天冠⑦須彌等曜，漢訳は④安明山と明確でない．Skt. ⑥は前述の註（　）・Tib. 本⑥ Zla bahi shal からも Candrānana が正しいのであり，宋⑥唐③が一致する．魏⑧月色は前後の佛名から判断して相応すると思われる．漢⑤は③と同様である．Skt. ⑦⑧⑩は，宋唐魏漢四訳とも共通した配列で相応する．その中，Skt. ⑧ An-upalipta〔upa-√lip p.p〕の訳は，唐⑧不染汗・漢⑦無沽汗が正しい．Skt. ⑨ Vi-mala-prabha はシナ訳諸本共欠けている．シナ訳諸本の原本に無く，後に附加された佛名であろう．Skt. ⑪ Suryānana は宋⑩日音に一致するが，唐魏訳には無く，漢⑨日光とあるが明確で無い．Skt. ⑫⑬は，宋唐訳は相応するが，魏⑭安明頂・漢⑩大音王は曖昧である．Skt. ⑭ Suvarna-prabha はシナ訳訳本とは一致しない．然しながら，宋⑬唐⑫魏⑱漢⑫に金蔵とあり，此の訳は Suvarṇagarbha Skt. ㊼ に相応するのであるが，特に宋訳を見た場合，Skt. ⑬と Skt. ⑮は⑫，⑭と全く一致する上，梵本と宋訳とは殆んど配列が同じである事を考えれば，その中間に位する宋⑬は Skt. ⑭に相応しなければならない．従って，シナ訳諸本の原語は Suvarṇa-garbha とあり，現在梵本は後の展開で次に続く Skt. ⑮⑯の -prabha, -nirbhāsa と同じく -prabha としたのだろう．

NII-Electronic Library Service

Sapporo Otani University & Junior College of Sapporo Otani University

Skt. ⑮ Jyotiṣprabha, ⑯ Vaidū ya-nirbhāsa は，宋⑭火光，⑯瑠璃光と一致するが，唐訳は⑯光明熾盛瑠璃金光とあるから(prabha) jyotiṣ-vaiḍūrya-suvarṇa-prabha となり Skt. ⑮⑯⑭が一つになった佛名と考えられる．魏⑲燄光が Skt. ⑮に一致し，漢⑮瑠璃光が Skt. ⑯に一致するが，その前后に示される魏⑯瑠璃妙華⑰瑠璃金色，漢⑬燄宝光は曖昧である．Skt. ⑮ と⑯との中間に宋訳は⑮不動地の佛名が認められるが相応する梵名は見出されない．唐⑮大地種姓，魏⑮不動地㉑地動，漢⑭有擧地と認められている点から見れば，推定されるシナ訳諸本の原本にはその原語があり，現存梵本では此の語は抹消されたと考えられよう．Skt. ⑰ Brahma-ghoṣa は，シナ訳諸本とも相応語は認められない．Skt. ⑱ Candrābhibhu は宋⑰月王と相応しようが，唐⑰魏㉒月像は前后から判断した佛名である．漢⑯日月光も日の字は不用であり，月光とすれば⑮の次であるから -abhibhū を不用意に -abhibhāsa と誤ったとも考えられる．Skt. ⑲ Sūryaghoṣa は唐訳のみ欠く．

Skt. ⑳ Mukta-kusuma-pratinaṇḍita-prabha は唐⑱が完全に一致し，魏訳は㉔解説華 Mukta-kusuma ㉕荘厳光明 Pratinandita-prabha と二佛に分かれる．宋⑲散華荘厳は prabha の省略形である．Skt. ㉑ Śrī-kuṭa は宋訳⑳のみ一致し，他訳には無い．Skt. ㉒ Sāgara-vara-buddhi-vikrīḍita-abhijña は唐⑲が妙海勝覺遊戯神通と妙の字を除いて一致する．宋㉑持海慧自在通王であるから dhara-sāgara-buddhi- …… -abhijñā-rāja となり，vara を dhara と変えれば，自在と王の語が相応しないだけである．魏㉖海覺神通，漢⑲神通遊持意如海と王の語は無いから宋訳の王の語は余計である．Skt. ㉓ Vara-prabha は従来“勝光，妙光”と訳さるべきである[6]．然しながら，vara は √vṛ の派生語であり，1. to select, prefer to からの best, excellent〔勝・妙〕の外に，2. to cover, veil の動詞もあり[7]，宋訳々者はその意味で“光りを施す”と訳したのだろう．唐⑳金剛光は Varja-prabha となり，Vara→Varja と誤ったのでは無かろうか．宋唐訳とも明確には規定出来ないが，前后の相応性を考えれば Skt. ㉓と宋㉒，唐⑳が関連を持つ事は明らかである．Skt. ㉔ Mahā-gandha-rāja-nirbhāsa は，宋㉓大香象光[8] Mahā-gandha-hasti-nirbhāsa と rāja↔hasti を除いて一致し，唐㉑大阿迦陀香光も Mahāgandha-nirbhāsa となるから rāja を除いた Skt. ㉔になる．魏㉘大香も相応すると考えられようが，いずれもシナ訳には rāja が訳されていない．Skt. ⑫㉜と -rāja- の語は訳され，屢々使われる語であるから，原本には無かったとは思えない．別な語か，或いは解読困難な形ではなかったかと思われる．[9]

Skt. ㉕ Vyapagata-khila-mala-pratighosa (or °pratigha) は宋㉔離一切垢が Vyapagata-sarva-mala となるから，Khila-mala を一切垢と訳し，pratighosa (or °pratigha) は省略した形となる．魏訳も宋訳と同じであり，唐㉒捨離煩悩心，漢㉔降棄悲嫉と pratigha に訳している．Skt. ㉖ Sura-kūṭa は宋㉕唐㉔に一致する．Skt. ㉗ Raṇaṁ-jaha は Hybrid Skt. であり“abandoning impurities”[10]と訳されるが，シナ訳には相応佛名は無い．東．No. 27, 63, 京．荻原訳註（21）〔前述〕より，Ratna-jaha とすれば前后の佛名より判断して宋㉖寶光が相応せねばならない．他訳では唐㉓寶増長，魏㉛寶燄とその位置から見て相応しそうだが，宋訳と同様に -jaha の訳語に当らない．逆にシナ訳の訳語が正しいとすれば jaha は Jvala-(na) or Jyotis では無かったかと思われる．Skt. ㉙ Candra-sūrya-jihmī-karaṇa は，唐㉗映蔽日月光，魏㉟蔽日月光の光 (prabha)の無い形である．宋㉙過日月光は jihmīkaraṇa “さまたげる程”と云う意味を訳者の意図から“越える程”としたのであろう．シナ訳はいずれも光の訳語があり，Lv 292,7; Candra-sūrya-jihmīkara-prabha[11] の語がある事より考えれば，現存梵本は °prabha の語を省略したのであろう．

Skt. ㉚ Uttapta-vaiḍūrya-nirbhāsa は唐㉘照曜瑠璃と一致する．宋㉙最上瑠璃光，魏㉟無上瑠璃光は Uttapta を Uttama と訳している．原本がいずれであったかは不明であるが，唐訳は光の語を訳さなかったのであろう．Skt. ㉛ Citta-dhārā-buddhi-saṁkusumita-abhyudgata は宋㉚慧華開心行出生が buddhi-puṣpasaṁkusumita-citta……abhyudgata となるから，相応しよう．他訳には推定可

NII-Electronic Library Service

Sapporo Otani University & Junior College of Sapporo Otani University

能な佛名は無く，唐㉙心覺花がその位置から判断して考えられるだけである．Skt.㉜Puṣpavatī-vana-rāja-saṁkusumita-abhijña は，宋㉛大華林通王が Mahā-puṣpatvatī-vana-abhijña-raja となるから相応しよう．唐㉜花瓔珞色王開敷神通も Puṣpa……varṇa-rāja-saṁkusumita-abhijña と相応する．魏㊷華色王 Puṣpa-varṇa-rāja は Skt.㉜ の前半のみの訳語である．原本の原語がそうであったかどうかは不明である．また，唐魏訳の色の原語が varṇa か現存梵本の vana かも同様である．Skt.㉝ Puṣpākara はシナ訳諸本に相応佛名が無い．Skt.㉞ Udaka-candra は，唐㉝魏㊸漢㉘水月光に相応しよう．宋訳は㉜に一月光 eka-candra-bhānu (praka) とあり，eka が無ければ Skt.㊺ or ㊼ の訳語に近いが，その位置から考えて Skt.㉞ に相当せねばならないから，Udaka を eka と誤ったのであろう．唐魏漢訳に水月光とあるのだから，原本には光の訳語に相当する語（prabha?）があり，宋訳のみ Udaka を 一〔eka〕と訳したとすべきであろう．

Skt.㉟ Avidya-andhakara-vidhvaṁsanakara は宋㉝唐㉞訳に一致し，魏㊹漢㉙が水月光の後であり，やゝ相応しよう．Skt.㊱ Loka-indra は Skt.㉓ と同佛名であり，シナ訳には無い．Skt.㊱ Loka-indra は Skt.㉓ と同佛名であり，唐㊶世主が相応するが，最后の佛であるから Skt.㊱ とは位置的に相当しない．従って，シナ訳諸本には相応佛名は見当らない．Skt.㊲ Mukta-cchatra-pravāḍa-sadṛśa とすれば，宋㉞唐㉟眞珠珊瑚蓋 Mukta-pravaḍa-cchatra に相応しよう．魏漢訳には見られない．Skt.㊳ Tiṣya は唐㊱底沙と完全に一致するが，他訳には全く見られない点を考えると後に附加されたのであろう．Skt.㊴ Dharma-mati-vinaṁdita-rāja は唐㊳法慧吼 Dharma-mati-vinadita が一番近い，魏㊾法慧，漢㉜法意も Dharma-mati であるが Skt.㊽ Dharmamati と一致するから，Skt.㊴ とは思えない．宋訳には相応佛名は無いが，次に続く㊱㊲が Skt.㊵㊶ に一致する点から考えると㉟三乘法自在王に相当しよう．㊱自在王を -vinaṁdita-rāja からの訳と見れば，㉟は訳出者の意図からの訳語であろう．

Skt.㊵ Siṁha-sāgara-kūṭa-vinaṁdita-rāja は宋㊱師子海峯自在王と一致する．唐㊴有師子吼鵝鷹聲，漢㉝師子威象王步と位置的に相応すると思われる佛名が示されるが曖昧である．Skt.㊶ Sāgara-meru-candra はシナ訳諸本には見られず，Skt.㊴㊵㊷と似た形で続く点から考えれば，-vinaṁdita-rāja が略されたか，元来，無かった佛名と思われる．Skt.㊷ Brahma-svaranāda-abhinamdita は宋㊲梵音聲自在王が相応しよう．王の語は余計だが，此れは訳出者が㉟㊱と続き vinaṁditarāja を自在王と訳し，次に -abhinaṁdita を続けて自在王と訳したのであろう．唐㊵梵音龍吼 Brahma-svara-nāga-abhinadita となるから nāda を nāga としたのであろう．

以上の如く，㈠現存梵本と相応する佛名，㈡逆にシナ訳相互の関連より推定した梵名，について検討したのであるが，以上の操作によって次の様な結論と課題が提示されよう．

第一に指摘される点は，宋訳三十七佛は梵本八十佛中の第四十二佛迄に一つの逆も無く，全く同じ順序でほぼ完全に一致する事である．両経の相違を指摘すれば，Skt.⑨ Vimala-prabha は宋訳には見られないが，唐魏漢訳のいずれにも無く，宋⑦無垢面⑧無著⑨龍主，唐⑦離垢面⑧不染汙⑨龍天，魏⑩離垢⑪無著⑫龍天，漢⑥無塵垢⑦無沾汙⑧如龍無所不伏 とその前后の佛名から考えればシナ訳諸本の原本には Skt.⑨ の佛名は欠けており，后に附加されたと考えるのが妥当であろう．⑬金藏は唐魏漢訳にもあり，原本は Suvarṇa-garbha であり，Skt.⑭ はそれを -prabha としたのであろう．⑮不動地はシナ訳諸本にはすべて記され，梵本には見られないから梵本の省略と思える．Skt.⑰ Brahma-ghoṣa は逆にシナ訳には欠けている．Skt.㉝㊱㊳㊶ も Skt.㊳ Tisya が唐㊱底沙と一致するだけで，他は欠けている．唐訳について云えば，宋訳と同様に梵本記述佛名に沿って大体同じ順序で並べられ，第四十二佛迄に収まるが，宋訳程の密接な関連は無い．従って，宋訳との関連性の外に魏訳との関連性に於いて把握される佛名もあり，㉚月光㉛日光，㊳法慧吼㊴有師子吼鵝鷹

NII-Electronic Library Service

Sapporo Otani University & Junior College of Sapporo Otani University

聲㊵梵音龍吼㊶世主等は魏㊵月明㊶日光，㊾法慧㊿鬱音51師子音52龍音53處世等がそうである．魏訳については，何らかの意味で現存梵本と関連を持つ佛名を含めても二十三佛前後となり，特に第四十佛以降は梵本との相応よりは唐訳との比較に於いて考え得る佛名が多い．此の点は，全体的に見て現存梵本との関連性に於いて原語を推定出来る宋魏訳とは異なった性格を持っていると云えよう．漢訳三十六佛は，魏訳より更に少なく十五佛前後であるから，現存梵本から推定する方法は誤りであろう．呉訳三十三佛はすべて音訳であり，その原語を推定する事は，他訳と異なった方法をとらねばならない．音訳の研究が未だ定かではない今日，それを容易に規定する事は出来ないが，後日の研究課題として研鑽する所存である．

第二に指摘される点は，現存梵本八十佛とシナ訳諸本の関係についてである．此の点に関しては，最も近い宋訳との関係になるが，1. 梵本八十佛は，本来，前半部の佛名のみが示されており，後に後半部が前半部を受けついで増補した形態であり，従って宋訳はそれ以前の段階にあった原本を訳出した形態，2. 梵本八十佛中の第四十二佛迄に宋訳三十七佛は収まり，それ以降の佛名は全く無く，一佛から二佛へと分離された形も見られない点から，宋訳は梵本の後半部を省略した形態，と云う二つの過程が考えられる．そのいずれであるかは，梵本佛名に同佛名が四組あり，同一梵語の使用傾向を考え，更に宋訳全体の形態[12]を考えると梵本を省略した形態と思われるが断定は出来ない．

第三に指摘される点は，シナ訳相互の関連性についてである．諸本訳語の原語を現存梵本を依り所として推定した場合には，宋唐訳は梵本第四十二佛迄に相応して収まり，魏漢訳はその数が少ないから，梵本・宋唐訳・魏漢訳のグループに分類される．更に唐訳と魏訳は両訳のみに相応する佛名も見られる．従って，此の点からシナ訳諸本が同一系統の原本から訳出されたと云う前提を認めるならば，その成立過程に漢訳→魏訳→唐訳→宋訳と云う推移が考えられる．

最後に無量壽經の成立過程について附言する．無量壽經諸異本の成立過程については，特に浄土三部經の一つとして重要視され来た魏訳無量壽經を中心に種々なる研究がなされており，單に“過去佛名について”のみを取り上げてそれを云々するのは誤りである．然しながら，その成立過程を論ずる全体的見解の一部分として，此の“過去佛名”を検討した限りに於いても宋訳は異系統と主張せる学説とは反対の立場を示す一つの根拠となるであろうし，漢訳→魏訳→唐訳→宋訳と云う成立過程を予想し得る一つの資料にもなり得よう．ここでは，諸異本全体の近似相違の検討，更には未だ訳出者に異説がある漢・魏訳の予想される訳出者の訳語法からの検討等の研究課題の一段階として“過去佛名”を取り上げ検討した次第である．

〔註〕

1) 本表は以下に述べる検討の結果を総合して作ったものであり，順序が前後するが，便宜上，先に図示する．容易に相応可能な佛名はそのまゝを記し，全体の記列順序・シナ訳諸本から推定した佛名はカッコで示した．尚，梵名で「註」により二通りに考えられているものはそれを記した．

2) ed. by F. Edgerton; Buddhist Hybrid Sanskrit Grammer and Dictionary (vol. II. Dictionary) p. 265 には“Mv i. 193. 13 ff; SP 22. 3; 27. 4; LV 5. 4; 172. 19; 185. 15; 253. 16; 415. 19; Mv i. 1. 13; 2. 1; 3. 3; 57. 13; 61. 11; 170. 3; 227. 6; iii 239. 10 ff; 241. 13; 242. 19; 243. 20; 244. 13; 247. 3; 248. 3; Mvy 95: Divy 246. 5 ff; Gv 104. 13; 222. 2; Vaj 26. 18; Sukh 5. 6 (※); 76. 10; Karmav 102. 15; 115. 9; AsP 48. 10.”の資料が挙げられ，望月佛教大辞典 4 p. 3696 II～p. 3697 II には“増一阿含経第十三・四分律第三十一・大法鼓經巻上……”を挙げられている．

3) 田中慶太郎編輯「支那文を読む為の漢字典」〔文求堂 昭21年3版〕「辭源上下」〔商務印書館：上海 中華民国45年〕に依る．また，悉曇論〔荻原雲來文集 p. 838〕を見ると“囉(ra) 多(ta) 波(pa)”が一致する．

4) ed. by M. Monier-Williams; Sanskrit-English Dictionary, Oxford 1899. p. 127 〔Skt.-Eng. Dic.〕

5) 荻原雲來著 梵漢對譯佛教辭典〔Mvy.〕21, 37 にも“Prabhākaro nāma samādhiḥ 發光三摩地”とある．

6) 南條訳・荻原訳は勝光と訳し，Mvy. 128. 8 では“最(妙)”と訳す．

NII-Electronic Library Service

Sapporo Otani University & Junior College of Sapporo Otani University

7) Skt.-Eng. Dic. p. 1007.
8) Mvy. 23,60; "Gandhahastī 大香象(香象)" とあり.
9) 京. も此の個所が変っている.
10) Hyb. Skt. Dic. (by Edgertion) p. 450.
11) Hyb. Skt. Dic. p. 224.
12) 無量壽莊嚴經本願文について（拙論）〔印度学佛教学研究第11巻第1号 p. 199～p. 212〕 無量壽莊嚴經について（拙論）〔印度学佛教学研究第12巻第1号 p.　～p.　〕

NII-Electronic Library Service